令和２年度
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた
教科別実践事業（国語）　授業発表会

研究授業・授業研究会等「報告書」

3年「すがたをかえる大豆」（説明文）

5年「たずねびと」（物語文）

目　次

Ⅰ　はじめに

Ⅱ　研究授業・授業研究会に関して　・・・・・・・　１

１、３年生の授業に関して　・・・・・・・　１
（１）、授業記録　・・・・・・・　１～５
（２）、授業研究会　・・・・・・・　６～８
①、授業者より　（感想等）
②、授業研究会より（Ａ「成果」・Ｂ「課題」を箇条書きで整理。）
③、指導・講評　（指導主事より）

２、５年生の授業に関して　・・・・・・・　９
（１）、授業記録　・・・・・・・　９～１５
（２）、授業研究会　・・・・・・・　１６～１９
①、授業者より　（感想等）
②、授業研究会より（Ａ「成果」・Ｂ「課題」を箇条書きで整理。）
③、指導・講評　（指導主事より）

Ⅲ　研究の「成果・課題」に関して　・・・・・・・　２０～２４
１、「主体的・対話的で深い学び」について
２、読み物教材における「読み深める活動等」について
３、本年度の「研究（全体)」について

Ⅳ　全体会：「指導・講評」に関して　・・・・・・・　２５・２６
１、指導・講評　（指導主事より）

Ⅴ　おわりに　・・・・・・・　２７

Ⅰ　はじめに

４月当初は「公開授業」を予定していた本研究発表会でありましたが、夏休み期間になっても県内での感染者発生が収束しないことを受け、コロナ感染拡大防止のため郡外の先生方との交流(参観)がなくなりました。そして、郡内でも感染者が発生したため、Ｃ小以外の教員との交流は関係者のみに絞られ、授業の公開はなくなってしまいました。

６月当初の校内研修の中で、「公開するしないに関わらず、Ｃ小としての国語の研究を進めなくては、授業を発表することすらできない。ゴールを目指して協力して頑張ろう。」と呼びかけてきました。そして、「２ヶ月間の授業減による短期間での研究」というハンデも乗り越えて、１０月１６日(金)の発表会当日を迎えることができました。

Ｃ小での公開授業方針の一つである「少人数でも、全員参加型の授業として、児童一人一人が生き生きと学習している姿」を、少ない人数の先生にしか見てもらえないのは残念でもありました。そして、当日はその方針が具現化された授業実践となりました。また、参加してくださった指導主事等の皆様からは、温かな言葉、嬉しい言葉を沢山いただき、授業を発表して本当に良かったと感じました。多くの支援に心より感謝を申し上げます。

６月の授業再開から約４ヶ月間、先生方が「物語文」「説明文」班別に実践をリレーしながら研究してきた成果は、当日の授業に十分に生かすことができました。「叙述に即して読み取る活動とは？」「単元を貫く言語活動は、どのように構想するのか。」「教材の特色に応じた指導内容・方法はどうあるべきか。」など、多くの研究の成果が結実したと思います。研究の視点を絞り込み、皆で話し合いながら共有してきた授業改善は大きな財産にもなりました。それらは、児童に身についてきた「思考力・表現力」等を振り返れば良く分かります。そして、当日の授業中の児童の堂々とした交流活動にも現れていました。

研究のねらいをほぼ達成できたことを嬉しく思います。実質４ヶ月に満たない期間での取組ではありました。特に、２学期になってからの２ヶ月間の努力・協力は本当に素晴らしかったです。授業の改善が加速度的に進んでいきました。先生方の前向きな姿勢・取組には本当に頭の下がる気持ちで一杯です。感謝しています。本当にお疲れ様でした。

この「報告書」は、それらの様子が詳しく理解してもらえるように丁寧にまとめました。また、授業記録は「映像」としても残してありますので、必要な方は申し出てください。

本研究の「成果と課題」も、先生方の言葉を取り入れながらまとめました。何を目的として、先生方にも何が身についたのか、何が課題として残されたのか、詳しくまとめてあります。参考にしていただければ幸いです。そして、この「報告書」を通して実践記録等を配布できることを嬉しく思います。なお、忌憚のない御意見もお待ちしています。

最後に、群馬県教育委員会、教育事務所、群馬大学附属小学校等、関係者の方々の御協力に心より感謝いたします。研究が行き詰まった時、常に貴重な助言や示唆を与えていただけたこと本当に助かりました。また。先生方の指導力向上にも大きく役立ちました。心より感謝いたします。今後、残された課題を解決すべく更なる研究を続けていきたいと考えています。引き続き本校の研究に対する御支援・御協力を宜しくお願いいたします。

令和２年１１月吉日　　Ｃ小学校

校長　　○○　○○

Ⅱ、研究授業(記録)・授業研究会等に関して

2、　3年生の授業に関して

(1)、授業記録【　】内の数字は、授業全体のおおよその経過時間を示しています。

指導上の留意点及び支援	時間	学習活動「児童の意見・反応」
○前時を振り返り、本時のめあてを確認する。 **・「中」に書かれている事例についてどんな仲間分けで書かれていたかを確認する** （教師）「前回は、それぞれの部屋（段落）に名前をつけましたね。」 （教師）「今日は「中」に書かれている事例の順番について学習します。」 **・めあてを提示する。** （教師）「以前先生が見せた『巻物』について覚えていますか。そこにはどんな順序で書かれていましたか。」 （教師）「もし、先生と同じように『よく食べられる順に書かれたとしたら、この順番はおかしくないですか。豆腐がこの順番にありますよね。だから、今日は作者がどんな順番で書こうとしたのかについて考えてましょう。」 **・授業者の作成した『巻物』の順番を例にミニカードに書いた物を例示する。※２枚で１セット** （教師）「みんなは、先生と同じように、どんな順番で作者の国分さんが書いたのかを、まずは自分１人で考えて、このカードに書いてみましょう。」	6	**Ⅰ　本時の学習のめあてを確かめる。** ［めあて］　「説明のじゅんじょ」のひみつを見つけよう （児童）「よく食べられる順で書かれていました。」

○「とうふ」はなぜ３番目の事例なのかをきっかけとして考えさせる。

（教師）「このカードの『よく食べられる順』で見ると、豆腐が真ん中にあるのはおかしいですね。なぜ豆腐が３番目にあるのかみるといいかもしれませんね。」

「そうですね。」

・自分の考えをもたせてから交流させる。

・「中」に書かれている文の中の言葉を根拠に考えるように伝える。

・ミニカードが貼れるように文章が上に貼ってあるボードを用意する。

7

２「中」に書かれている事例の順序について考える。

（児童）「適当ではないんですよね？」

児童のつぶやき

「手間をかける順番かなあ」

「よく使う順番かも」

「知ってもらいたい順だよ」

「材料によく変えて行く順になってる」

「準備がいる（必要な）順番だよ」

「作業が必要な順番かな」

○２～３人グループで考えさせる。
・ミニカードを使って、根拠を示しながら、自分の考えを発表するように伝える。

（教師）「それでは、ボードの前に来て、自分の考えを友達に発表しましょう。」
「そのときに、『～だからこう思ったんだよ』みたいに理由を入れて発表して下さい。」
「その時に、友達の考えを聞いて、新しい考えが出てきたら、その考えもカードに書いて発表してもいいですよ。」
「今日は、３人の交流ですが、お互いの発表をよく聞いて交流しましょう。」

３　２～３人グループで考える。

・まず、子どもたちだけで考える。

・
・
・

児童の意見交流

（児童１）「ぼくは、『材料によくなる』と『材料によくならない』だと思いました。」
「理由は、もやしが、サラダとか味噌汁とかいろいろな使い道があるし、逆に煮豆はあまり材料にならないからです。質問はありますか。」
（児童２）「なるほどね。」
（児童３）「でも、きなことかは材料にあまり使われない気がするけど。」
（児童１）「そんなことはないです。きなこもヨーグルトとか味噌汁に材料として使われています。」
（児童３）「ふーんそうなんだ。」
「ぼくは、『わかりやすい順」から『わかりにくい順』だと思いました。」
「理由は、この段落に『１番わかりやすい』と書いてあるから、ここから順番に説明が難しくなっていくと思いました。」

（教師）「それでは、半分くらい経ったので、今までに自分が書いた考え以外のものも考えてみましょう。」 （教師）「そうだね。なんだか７段落だけらくそうだね。なんでかな。」 **・教師が児童２の出した意見を共有させて、なぜ７段落だけ６段落までの流れと違うのか考えさせた。** （教師）「それまでと違うんだけど、何か７段落の中にそのヒントになる言葉はありませんか。」 **・教師が『これらの他に』が持つ役割について共有を図る。この言葉に気づいたことで、今まで児童が悩んでいたことの理由が見つかる。**	7	**※このようなやりとりが間断なく続いた** （児童１）「この『じゅんびが楽』と『じゅんびが大変』を比べると、６段落までは、大豆から納豆だからこれに当てはまるんだけど、７段落は、枝豆と納豆だから当てはまらなくなるよ。」 （児童３）「『作業が少なめ』と『作業が大変』なら合うかも。」 （児童２）「それだと、変です。最初は大豆そのままで、次はきなこ、さらに豆腐、納豆と６段落まで『作業が大変』になっていくけど、７段落目は枝豆ともやしだから違うと思う。」 （児童３）「『これらの他に』です。」
○筆者の事例の順序の工夫をまとめさせる。 **・穴埋め式のまとめを用意して考えさせる。** （教師）「事例をまとめるときに大切なことってなんだろうね。この四角い紙の部分に「何が」大切か考えて書き込んでみましょう。	4	**４　まとめをノートに書く。** 。 児童の反応 「**順番**に気をつけて書くことが大切」 「同じです。」 「**書く順番**に気をつけて書く。」

○事例の順序の工夫について、振り返りの視点を与え、分かったこと、気が付いたことを発表させる。

（教師）「次回の授業のことも考えて、『気づいたこと』や『巻物づくりに向けて』書いてみましょう。（教師）

5

（教師）「国分さんは何のために順番に気をつけているんでしょうか」

（教師）「誰に向けて国分さんは書いているんでしょうか」
「そうですね。」
「読む人がこうしてほしいなと思うことを考えて国分さんは書いているんですよね。」

○教師が作成した巻物を見せて、自分が作ったときにどんなことを思って書いたのか話す。

（教師）「みんなも次に書くときは読む人のしてほしいことを考えてどんな順番で書くかよく考えて書きましょう。」 **（終了）**

5　本時の学習をふり返る。

・次回は食べものをあつかった本を読むことを伝える。
・各自が振り返りを考える。

児童の反応

「巻物づくりに向けて書く順番に向けて作ってみたいです。」

「話し合いがまとまった時に順番がどうなっているのかわかった。」

「巻物を書く順番に気をつけて書きたいです。」

（児童１）「読んだ人にもっと大事なことを調べてほしいから。」
（児童２）「少しでも国分さんがわかってほしいと思うから。」
（児童３）「読む人です。」

表れてほしい児童の姿
・筆者はれいを書くときに、順番を考えて説明しているのだな。
・種類にまとめて説明するとわかりやすいんだな。

※今日の話し合いは短く感じた感想を児童が話す。

(2)、授業研究会　※15：00～15：45

①、授業者（〇〇先生）より「授業説明」　　※箇条書きで要約して整理。

〇本時のねらい・指導のポイントについて

・みんなが目標に向かって落ち着いて学ぶことを１年間の目標にしている。

・単元では、「読んだことを生かして巻物をつくる」という言語活動を設定し、本時は、「読むこと」から「書くこと」へ視点を変える授業である。

・本時のねらいは、「説明の順序の秘密を見つける」として「めあて」を設定し、「中」の場面での「事例の書かれ方」について考えさせることである。

〇本時の学習について感じたこと

・意欲のある児童たちなので、それを生かした授業づくりを心がけている。

・「考えを持たせる場面」で、もう少し文章に触れさせてから考えを持たせるようにしたかった。

・本来は男子２人と女子３人のグループにしたかったが、欠席者がいたので男女３人の交流にした。１グループでの活動だったので、グループ交流後の手立てに迷った。

・こちらが交流の場面でどの程度言葉をかけるか迷った。

・だんだんと児童が文章から理由を見つけるようになり、後半になるにつれ７段落最初の「これらの他に」の言葉に気づき、それまでの段落の内容と比べて児童が考えるようになった。

・順序を大切にして書くことは理解していたが、もう少し言葉をよりどころにしたり、目的意識をもたせたりしたかった。

②、班別協議（3年生：説明文指導）　　※話合いで整理された内容を要約して整理。

〇協議１：「手立て１：考えを持たせる場面での手立て」について

・考える時間を確保し、ミニカードに記入することで自分の考えが持てるようにする。
※視点：自分の考えを理由とともにもたせることができたか。

〇話合い（協議）の結果

◇　良かった点　◇

・ホワイトボードに文章を掲示したり、黒板に文章に即して写真や絵を貼ったりしたことが、考える時に有効に働き、文章を指し示しながら意見の交流ができた。（複数）

・導入で音読を入れなかったことが「スムーズな流れ」につながった。

・全員がホワイトボードの文章を見ながら考えることができた。

・具体的な例（豆腐の話）を授業者が出したことで、見通しが持てたのではないか。

・ミニカードを１人１枚ではなく、複数書くことも可能としたことで、少人数ながら活性化できた。

※ミニカードの有効性が認められた。

◇ 課題・改善点など ◇
・考えを持たせる場面で、５分という時間が集中するためにベストではなかったか。
・ミニカードの意見を書いたのに消す児童がいてもったいなかった。
※様々な場面でミニカードを活用し、使い方に慣れるようにしていく。

〇協議２：「手立て２：伝え合う場面での手立て」について

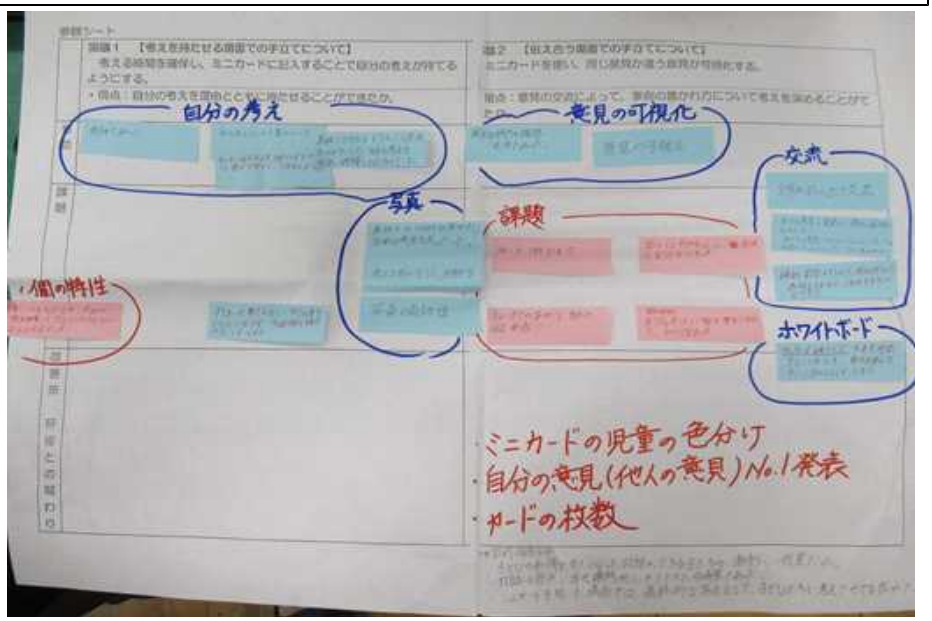
・ミニカードを使い、同じ意見か違う意見か可視化する。
※視点：意見の交流によって、事例の書かれ方について考えを深めることができたか。

〇話合い（協議）の結果

◇ 良かった点 ◇
・ホワイトボードの使い方を、上に文章を掲示し、その下に自分たちの意見を貼っていけるようにして、上下を比べられるように可視化したことは有効だった。
・可視化したホワイトボードの上下を比べることで、文章から理由を探しながら意見交流できたことは有効だった。
・①児童のみ→②授業者の補助質問→③授業者が４人目として加わるといった３段階で行った授業者の関わり方が、児童が意見を深めていく過程で有効だった。
※ミニカードを使って可視化したことが交流に有効だった。

◇ 課題・改善点など ◇
・１枚のミニカードだけから、その反対だったり、派生するものを考えさせたりする方法も有効ではないか。
・３人の児童が意見交流時に２人だけの交流になった時もあったので、全員が集中できるような手立てができればよかった。聞く場面も意識させていきたい。
※複数出た意見の中で、自分なりの結論を持たせることは必要。

研究協議会で活用し、記入後の用紙



③、指導・講評（指導主事） ※箇条書きで要約して整理。

1、本時の大事な点の再確認（授業において一番大事な点）

・児童にとっては対話が楽しいと感じさせた上で、本時のねらいに迫ること。

2、良かったところ

(1)、授業者が児童の個性をしっかりつかんだ上で「対話」をしっかり教えている。「考える」「受け入れる」「反論する」「反応できる」などができている。

(2)、授業者の単元構想が素晴らしい。（『はばプラ　P2』の紹介）授業のつながりがしっかりできているから、子ども達は学んだことを積み上げていける。本時は何を学ぶ時間かを子ども達が捉えている。

(3)、「叙述」という点で、考える際に文章に戻り言葉を拠り所にして、根拠となる文章を手で指し示して理由を説明していた点が素晴らしい。

3、今後よりよくするためのポイント

(1)、ミニカードを複数書くことは悪いことではないが、最終的にその書かれた意見をどのように使っていくかが大切である。最終的にそのカードを使って「順序とはこういうものである」ということに気付かせる必要がある。どの場面でそのようにしていくかは、「これらの他に」という言葉に着目させたときに、その言葉が構造上どのような意味を持つのか確認させたい。

(2)、叙述に着目させたときに、１人の児童がその意図に気付いた。その時に全員でその叙述の持つ意味を共有させたい。他の接続詞の流れと併せて考えると、「何でもいい」考えから「意味を持つ」考えに変えることができる。叙述に即して、接続詞などの言葉に着目させて考えていくとやがて「順序性」に気付くことができる。

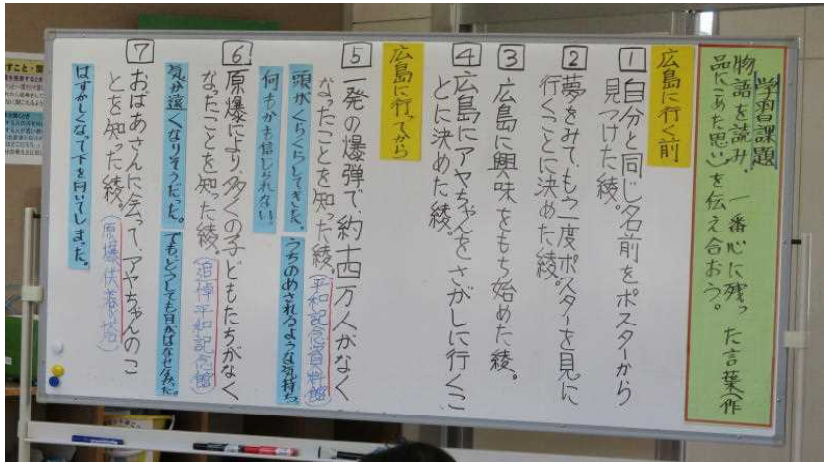
　児童が振り返りで「順序に気をつける」と書けた。次の活動の巻物をつくる際に、「どんな順序に気をつけるんだろう」と考える。その時に交流した時の「好きな物に気をつける」のか「時間に気をつける」のかを考える児童もいる。この時間で交流したことがつながっていく。最終的に巻物を完成させたときに振り返ったときに、自分が相手にわかりやすく伝えるために、具体的にこういうことを気をつけたという振り返りになれば、完全に単元を貫いたねらいになる。

(3)、叙述に着目できていたし、対話も成立していた素晴らしい授業だった。ゆえに（『はばプラ　P7』の紹介）「答えはない」ままにせず、必ず着目させる点を抑えていけば、ねらいに立ち返って児童の考えも深まっていく。「これらの他に」に着目させたのだから、さらに相手にわかりやすく伝えるという視点で考えさせれば、どのような順序の工夫をしているのかをみんなで考えられる。

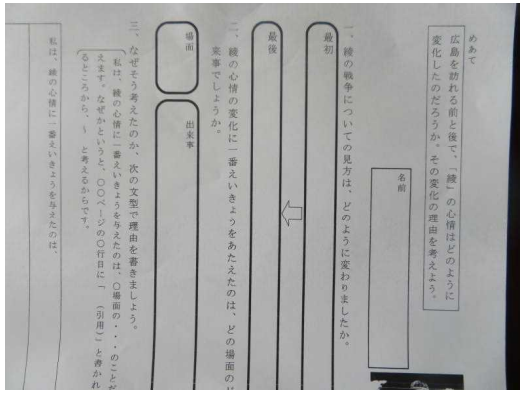
(4)、音読は必ずしも入れなくてよい。児童が「わかりやすい」という言葉をつぶやいたときに、そこに着目させて黙読させるなどは有効である。今日の授業ならそこの場面で入れられる。

2、5年生の授業に関して

(1)、授業記録　※文言は多少整理してまとめてあります。内容は同じです。【　】内は、授業全体の大凡の経過時間です。

教師の指示等　及び　指導上の留意点・支援など		学習活動　及び　児童の意見・反応など
○「綾」が広島に行く前後に出会った人物や出来事、その時々の心情について、ホワイトボードを見て確認する。 (教師)「最初に今までの学習を復習します。」 「７場面までのエピソードをまとめたよね。」 「１場面から読んで確認しましょう。」 (教師)「５場面からの主人公の綾の心情を振り返ろう。」 ・５場面「５場面の心情は何ですか？」 ・６場面「６場面ではどうでしたか？」 ・７場面「７場面ではどうでした？」 ※「広島」での出来事と綾の心情を再確認する。	3	**１　前時までの学習の流れを想起する。** (児童)・ホワイトボードを一斉に読みながら確認する。 ・掲示されている短文を１場面から読み上げていく。(黒文字)  (児童) ・５場面：「頭がくらくらした。」・「信じられない。」 「打ちのめされるような気持ち。」 ・６場面：「気が遠くなりそうだった。」・「どうしても目がはなせなかった。」 ・７場面：「わたしははずかしくなって下を向いてしまった。」 ※用意していた「青い紙」を、５～７場面に掲示する。 ◇ノート(既習事項)を読み返しながら「ふり返る」姿が定着。 【～３分】
(教師)「今日は、どういうことを勉強するかというと。」 ・「めあて」を掲示する。		**２　本時の学習のめあてを知る**

［めあて］広島を訪れる前と後で、「綾」の心情はどのように変化したのだろうか。その変化の理由を考えよう。

	1	(児童)・掲示された「めあて」を一斉音読する。
〇最初と最後でどのように変わったのかを考える、を説明。 (教師)「まず最初に、次のことを考えてもらいます。」 「綾」の戦争についての「見方・考え方」が、最初と最後では、どんなふうに変わったのかを考えます。 ・「最初」「最後」のカードを掲示して説明する。 **〇8場面を音読してから、考えましょう。**	3	**３　8場面を音読し、「綾」の戦争についての見方の変化を考える。** (児童)・「８場面」を一斉音読する。　【～７分】
〇ワークシートを活用して、「１」を読み取る。整理する。 (教師)「ワークシートを配布しますから、自分の考えを書いてください。」 (教師)・ワークシート「１」の書き方の説明をする。  (教師)・記入の様子を見て、個別に支援する。	12	(児童)・ワークシートを受け取る。名前を書く。 (児童)・説明後、ワークシートに、自分の考えを書き始める。 (児童)・ワークシートに、考えを書く。※約６分間。　【～１４分】

(教師)「戦争について、見方はどう変わったかな。」

(教師)
・全体の意見の概要を「最初」「最後」でくくる。

(教師)「見方は、どうなりましたか。」

(教師)・「見方が大きく変わった。」ことでまとめる。
※「綾の心情」が変わってきたことをおさえる。

(児童)
・「最初は、自分には関係のないと思っていて、最後は、私たちが忘れなかったら二度と同じ目にあわないのかもしれない、と思った。」
・「戦争について良く分からなかった。最後は、もうこんなに恐ろしいことが起こって欲しくない。と思った。」
・「最初は、ただ怖かったけど、最後は、もう二度と同じ目にあわないようにしたい、と思うようになっていた。」
・「最初は、戦争に関して何も知らなかったけど、最後は、戦争のことをたくさん知って、どんなに大変だったかが分かった。」
・「最初は、ポスターのことに興味がなかったけど、最後は、もう同じような目にあわないようにしたい、と思った。」
・「最初は、自分には関係ないと思っていた。最後は、二度と同じことがないように、と思った。」
・「最初は、関心がなかったけど、最後は、忘れないでいよう、というようになった。」

※全員が発表。

(児童)・「変わった」 【～１９分】

○ワークシートを活用して、「2」を読み取る。整理する。

(教師)「次に、綾の心情の変化に一番影響を与えたのは、どの場面の、どの出来事か、を考えましょう。」
・「学習課題」を掲示する。

(教師)・ワークシート「２」の書き方の説明をする。
・「書き方」のサンプルを貼り、丁寧に説明する。
※ホワイトボードの「既習事項」も活用する。
※「○場面」のカードも３枚掲示する。

(教師)・記入の様子を見て、個別に支援する。

(教師)・「理由の書き方」の追加説明を加える。「文型」

４　「綾」の変化に影響を与えた出来事を考える。

(児童)・黒板の「貼り紙(文型)」を見ながら、教師の説明を聞く。

(児童)・説明後、各自が考えを書き始める。 【～２１分】

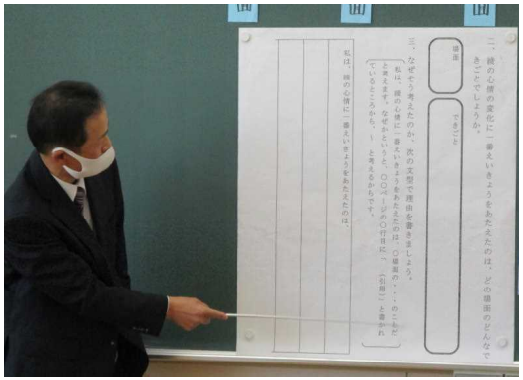
(児童)・「理由の書き方」を確認後、再度記入。 【～２５分】

＜文型＞。

私は、綾の心情にえいきょうを与えた出来事は、〇場面の・・・のことだと考えます。
なぜかというと、〇〇ページの〇行目に「(引用)」と書かれているところから、～と考えるからです。

※児童が自分の考えを書いて整理する時間を十分にとった。(約１０分)

10

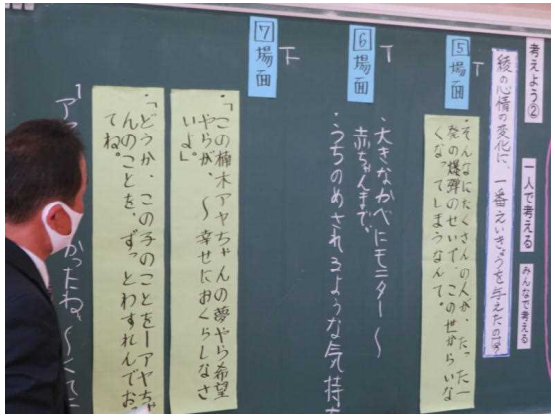


※「文型」を説明。

【～３１分】

(教師)「それでは、考えを発表しましょう。」
「自分の考えと似ているところ、違うところ、気を付けながら、比べながら、聞いて下さい。」

発表中



整理された
１回目の考え

14

5　学級全体で交流し、一番影響を与えた出来事について考えを深める。

(児童)

・⑤場面「約１４万人がなくなったということだと考えます。なぜなら、Ｐ 113 の１行目に書いてあることから、爆弾で多くの人の命が奪われてしまったと思ったのではないか、と考えたからです。」
・⑤場面「約１４万人が死んだことを知ったことだと考えてます。なぜかというと、Ｐ 113 の１・２行目に、たった一発の爆弾のせいで、この世からいなくなってしまった、と書かれているからです。」
・⑦場面「おばあさんが話してくれたことです。理由はＰ 117 の１１行目に、そんなことを考えたこともなかった、と話しているからです。」
・⑦場面「おばあさんに会ってアヤのことを知ったところだと考えます。なぜかというと、Ｐ 118 の２行目に、どうかこの子のことをずっと忘れんでおっどってね、と書かれているからです。」
・⑥場面「多くの子どもがなくなったことを知ったことだと考えます。なぜなら、Ｐ 113 の 13 行目に、こんなにも多くの人が死んでしまったと考えるようになった、と思うからです。」
・⑥場面「６場面の１行目だと思います。そこに、打ちのめされるという気持ちのまま資料館を出た、と書いてあるからです。」
・⑦場面「おばあさんの話からアヤのことを知ったことだ考えます。なぜかというと、Ｐ 117 の７行目に、アヤちゃんよかったね、もう一人のアヤちゃんが会いに来てくれたよ、と書かれてあるからです。」

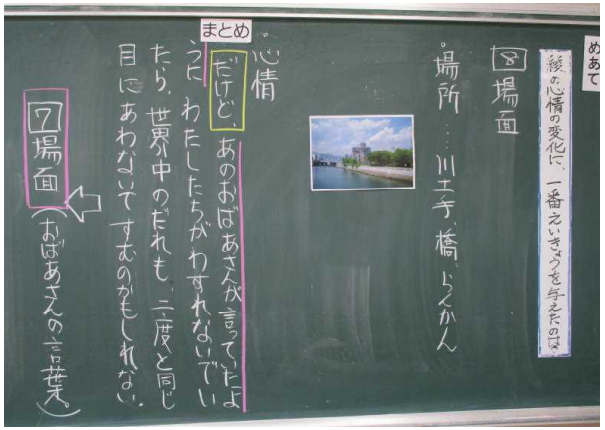
【～３８分】

※全員の意見が出されたこと、３つの場面全てが意見となったことを受け、絞り込みを開始する。 (教師)「どれなんだろう。」 「心情の変化に一番影響を与えたのはどれでしょう。」 ※「綾の心情が変わったという表現があるかな？」 と投げかけて、揺さぶる。 **※7場面から、戦争に対する綾の考えが変わってきたことを確認する。** (教師)「７場面と決めて良いですか。」 (教師) ・「では、７場面の何(３つの中のどれ)の出来事で、綾の気持ちが変わった、と言えるのでしょう。」 ①「この楠木アヤちゃんの夢やら希望やら‥」51 段落 ②「どうか、この子のことを―・・・」５３段落 ③「アヤちゃんよかったねぇ・・・・」５０段落 **※更に深く考えさせる。絞り込んでいく。** (追加の意見を受けて) ※再度、７場面で変わったことを確認する。 **・「恥ずかしくて、下を向いてしまったのはなぜですか。」** 【チャイム】 ・「おばあちゃんの話を聞いて、恥ずかしくなって下を向いてしまった。そこから変わってきたので良いですか」 ・「①で良いですね。」 ・「次の時間は、そのあたりを考えてから始めましょう。」 **終了**	14	(児童) ・５場面と６場面は、アヤちゃんのことではなくて、違う話(１４万人が死んだことなど)のことだけど、７場面はアヤちゃんのことを書いてあるから、７場面の出来事だと思います。 ・先ほどの意見と同じで、５場面と６場面は原爆のことに関してだけど、７場面は、アヤちゃんのことについておばあさんが語ってくれたことだから、７場面だと思います。 (児童)「はい」 ・「５場面と６場面は、綾の戦争についての見方だから、もう一人のアヤちゃんにではなくて、戦争のことについて詳しく書いてあるから、５場面と６場面は違うと思います。」 ※先ほど言えなかった意見をようやく発表。 (児童) ・「おばあちゃんが、アヤちゃんの夢や希望が、あらたな夢や希望になって暮らしなさいよ、と話したのを聞いたから。」 (児童)まだ、あやふやな雰囲気も残る。

※当日の「授業研究会」において、指導を受けた内容を参考にして、まとめきれなかった「影響を与えた出来事」について、再度、確認をしながらまとめました。当日の「指導案」にある追加部分(次時の指導)を、下記に紹介する。

(教師)
・「昨日の続きから始めます。」
・「一番影響を与えた出来事は、７場面の何かについては、８場面における綾の気付きや心情から考えよう。」
・「８場面の中で、綾の心の中に残っている一番の思いが、それを決める重要な出来事と言えます。」
・「８場面の中で、綾の心情が一番強く出ているところは、何段落ですか。」

※５９段落の内容が、綾に一番影響を与えた出来事であることを確認する。
・「一番影響を与えた出来事は、おばあさんの話や言葉なんだね。」



・「５９段落です。」
・「５９段落に書いてある、忘れないでいたら、世界中のだれも、二度と同じような目に合わないですむかもしれない、のおばあちゃんの言葉が、一番心に残っていると思います。」

・全員が、説明を聞きながら、確認する。

※７場面にさかのぼって、綾とおばあさんの会話部分を確認。
※５１段落の内容が、５９段落と重なっていることも確認。
これらの関連から、７場面が「一番影響を与えた出来事になる」ことを再度確認。

・本時の学習について分かったことや気づいたことをノートに記入し、発表させる。

6　振り返りをする。
※「ワークシート」に書かれた**児童の「振り返り」**を紹介します。

（男子児童３名）

・戦争のことをずっと忘れないでいたら、世界中のだれも二度と同じような目に合わないですむかもしれない、というところが良かった。理由は、この戦争のことを忘れなければ、私たちは助かるからです。

・心情とかエピソードとかをたくさん考えられてよかった。あと、キーワードが最初から黄色い線で引かれてるなんて、初めて気づきました。
教科書を読んで自分の意見を言えました。綾の心情をたくさん考えて影響を与えたところを見つけることができました。

・最初は、５場面だと思ったけど、７場面になって、そうなんだと思いました。
今日のエピソードで「忘れない」が入っている場所を発表しようとしたけど、違っていた。

（女子児童４名）

・綾の心情の変化に一番影響を与えたのは、７場面のおばあさんの言葉だということが分かった。
あと、原爆や戦争のことを、ずっと忘れなければ、二度と同じことが起きないことと、私も思いました。

・綾が戦争の話を聞いて、前はポスターの名前がただの名前でしかないと思っていたけど、ポスターの名前にもいくつもの面影が重なって忘れないでいようと思ったのが、私も同じだった。これからも、もっと考えたい。

・最後にまとめて分かったことは、綾は戦争などのことをきちんと考えていることが分かりました。自分も興味をもったものとかがあったら、綾みたいにきちんと考えたいです。
あと、一番影響を与えているのは、おばあさんの話だと思います。

・綾の心情の移り変わりについて勉強しました。初めは関係がないと思っていた綾だけど、終わりの方では関係があると思うようになったのが良かったです。
私も初めは綾と同じ気持ちだったけど、最後の方では「関係がある。」「戦争のことを覚えていれば、二度と同じ目には合わない。」と思いました。

【表れてほしい児童の姿】
・友達と同じ場面を選んでも考えの理由は違っていることが分かった。
・（友達の発言を聞いて）おばあさんとの出会いが「綾」の気持ちの変化に大きくえいきょうしていることに気づいた。

(2)、授業研究会　※15：00～15：45

①、授業者（〇〇先生）より「授業説明」　　※箇条書きで要約して整理。

〇本時のねらい・指導のポイントについて

・本時のねらいは、「主人公の心情の変化を叙述に即して捉えること」だった。

・ホワイトボードを活用して、「綾の心情の移り変わり」を掲示した。

〇本時の学習について感じたこと

・前半の「前後の気持ちの変化」の読み取りについて、特に男子の理解に時間がかかり（難しくて）、やや進行が遅れた面があった。

・後半の「影響を与えた出来事」については、教師としては５場面と６場面は意見として出てこないと予想していたが、児童は意見を出してきた。思っていたよりもおばあさんへの着目が低かった。逆に、揺さぶりをかける必要はなかった。

・７場面の「どの出来事かを絞る」場面では、「下を向いてしまった」こととの重さを判断して「おばあさんの話」の重要性を整理したが、全員が理解できたかは不安が残る。深めるところまではいかなかった。時間も足りなかった。

②、班別競技（5年生：物語文指導）　　※話合いで整理された内容を要約して整理。

〇協議１：「手立て１：考えを持たせる場面での手立て」について

・ホワイトボードを活用し、各場面の出来事や主人公のその時々の心情を確認することで、自分の考えを持たせるようにする。

※視点：本文の叙述を根拠に、自分の考えをもたせることができたか。

〇話合い（協議）の結果

◇　良かった点　◇

・ホワイトボードを活用したことで、「前時の振り返り」が確実にできた。（複数）

・　　〃　　は、自分の意見を持たせるためには有効だった。

・　　〃　　で、後半の「心情の変化」の読み取りの際にも、応用して有効活用することができた。　　**※ホワイトボードの有効性が認められた。**

◇　課題・改善点など　◇

・児童が自分の考えをまとめることで悩んでいた時にも、ホワイトボードを有効活用して、意見を持たせる支援ができたのではないか。

・７場面の重要性（おばあさんの話）を確認するうえでは、ホワイトボードにもう一工夫があれば、更に良かった。

・「一番影響を与えた出来事」を絞る際には、場面絞り（７場面）、出来事絞り（おばあさん）の２段階が必要ではなかったか。そのヒントをホワイトボードに生かしたい。

※ホワイトボードが有効だっただけに、更なる活用・工夫も出来たのではないか。

○協議２：「手立て２：伝え合う場面での手立て」について

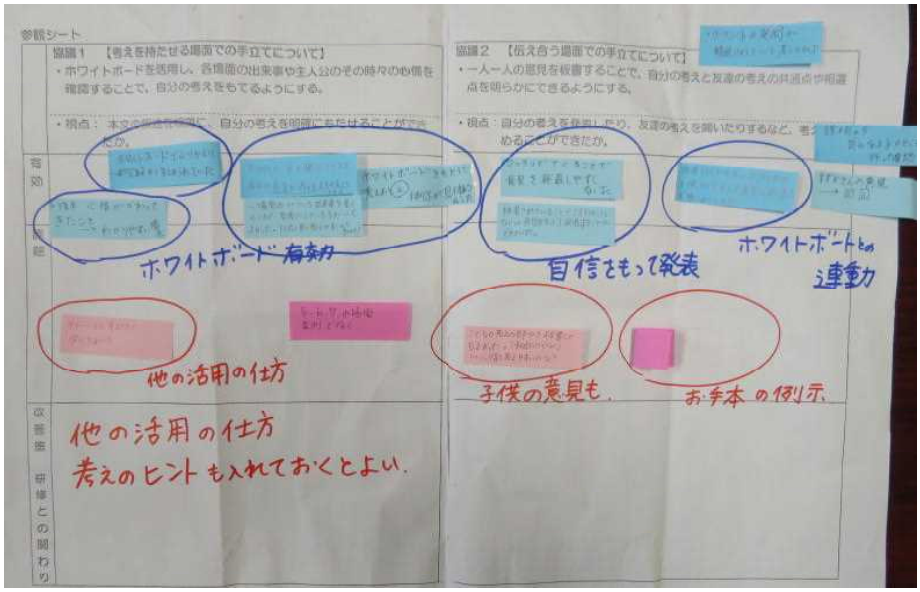
・一人一人の意見を板書することで、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点を明らかにできるようにする。
※視点：自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりするなど、考えを深めることができたか。

○話合い（協議）の結果

◇ 良かった点 ◇
・初めは女子の意見から出始めたが、その板書等を見ることで、男子児童も安心して意見を出すことができた。
・男子は最初「文型」の使い方の理解が低かったが、女子の発表を聞きながら「文型」の使い方の理解を深めたことで、男子が意見を出すことに結び付いた。
・板書とホワイトボードの内容を比べることで、共通点や相違点を明らかにしようとしていた。意見をもちやすかった。
※板書とホワイトボードの連動が効果的だった。共通点や相違点をつかみやすくしていた。

◇ 課題・改善点など ◇
・板書の内容も、教科書の叙述だけでなく、児童の考えも記述することで、心情の変化をより考えやすいものになったかもしれない。
・「文型」については、お手本の例示があると、よりスムーズに進んだのではないか。
※板書には、児童の意見をポイントを押さえて書くことも必要か。効果的な例示も必要。

研究協議会で活用し、記入後の用紙



※２７分経過

③、指導・講評（指導主事） ※箇条書きで要約して整理。

1、本時の大事な点の再確認（授業において一番大事な点）

・主人公の綾の心情の変化を、「叙述を基に考えること」ができることにある。

2、良かったところ

(1)、ホワイトボードを活用した導入がスムーズだった。前時の確実な振り返りから、本時の内容へと自然と入ることにつながった。

(2)、「話型」があったことで、下位の児童（男子）の理解に向けては有効であった。力がついてきた時点ならば不必要であるが、不十分な際には必要となる。児童の習得の状況に応じて、全体へ提示したり、個別支援で対応したりする。

(3)、話を聞かせる時の視点を具体的な「言葉がけ」で進めていたことが、学習の分かり易さにつながっていた。

3、本時の学習指導について

(1)、本時の最も重要な学習である「一番影響を与えた出来事を探る」場面については、８場面の叙述から考えることが大事だと思う。５場面も６場面も影響を与えていることは間違いない。しかし、綾の真の目的は「アヤちゃんのことを知ることであった。」となると、アヤちゃんのことが記述されている７場面になる。

そして、あばあさんの言葉にある「アヤちゃんの夢や希望が、あなたの・・・」と言われて、考えてもいないことを考えさせられた。また、おばあさんが綾の手をとって、アヤちゃんのことをずっと忘れんでおってね」と言い残した。そして、その一言がずっと綾の心に残っている。この「忘れないで・・」というキーワードが綾にとっての最大の出来事と判断できる。それは８場面で再度表現されている。

つまり、７場面（５１段落）のおばあさんの言葉が、綾にとっては一番の深い言葉であり、綾の心情の変化に大きく関わった出来事となると言える。

このような考え方を、教師が児童の言葉から言い出せるように、授業を流したり補助発問を発したりできたら、更に良かったと思う。

ただ、児童には、モヤモヤした部分が残っているので、次時の始まりの時点で、考えるヒントを提示して、再度「一番大事な出来事は、おばあさんの言葉を聞いたこと（７場面：５１段落）」にあることを確認して欲しい。

(2)、時間に余裕のある時は、子ども自身に聞くことが大事な方法となる。根拠をしっかりともたせるためには、他の児童の意見をあえて取り出すことで、その違いや基本となる叙述の違いが判明する。その際には「児童がしっかりと比較できる視点を与え」絞り込みに活用することが有効である。本文を突っ込む視点や方法を用意していくことが大事である。※８場面から７場面に戻ること。

(3)、本時の学習において、児童が最後まで自分の考えを伝えよう、自分たちで答えを見つけ出そうとしていた背景には、教師が、途中で「・・・としましょう。」と最終決断を押し付けていなかったことである。

(4)、本時のように「叙述に即して考えていくこと」「根拠を大事にして、考えをもた

せたり絞り込んだりすること」は、今後も大事にして欲しいポイントである。

(5)、本時でも見ることができたが、「全員が授業の中で、自分の意見を言えることはとても素晴らしいこと」だと思う。また、授業中なかなか意見が言えない男子に対して、友達が「〇〇君、意見を言おうよ。」と背中を押し、そして、本人がもっている意見を発表できた。これは、意見が互いに言い合える雰囲気作りができていることの証であり、研修の成果です。

※「指導主事より」感想等

・今年は授業を見る機会が少ない。授業を提供していただき、感謝している。

・児童数が少ない中、一人一人を大事にしながら授業を進めていることに、一人一人の発言を大事に扱っている様子が印象に残った。児童の意見を尊重していることが伝わってきた。

・本時の最大の山場で、児童の意見を絞り込むことの難しさも理解できた。
そこが教師として大事なことであることも分かった。

・今後、板書の有効活用の一つとして、ＩＣＴの活用ができるか考えてみたい。

※「授業説明」の様子

※「指導・講評」の様子

Ⅲ　研究の「成果・課題」に関して

ここでは、先生方へのアンケートを中心にして整理した。四角の中が先生方の意見となる。枠外には、今後の方向性等を簡単にまとめてある。

Ⅰ、「主体的・対話的で深い学び」について

上記のテーマについては、３年間をかけて研究してきた内容でもあり、以前から重視されている内容でもある。しかし、今回は「対話的で深い学び」を成立させながらの「主体的な学びの保持」となるため、その捉え方や方法の統一には難しさがあった。

以下では、Ｃ小の研究に係る「成果と反省」をまとめてある。「研究の概要」と連動させながら読み解いていただきたい。

(Ⅰ)、「主体的な学び」に関して

＜成果＞

・明確なねらいと主体的な活動を設定することで、「主体的な学び」につながった。
・自分の考えをきちんと持つことで、しっかりと進んで発表できるようになった。
・「振り返り」を自分の言葉でまとめることができるようになった。
・ユニバーサルデザインの学習体系ができ、どのような児童でも、学習に向かう姿勢が身に付いてきている。
・国語を中心とした研究が、各教科にも応用が利いている。主体性が生かせている。
・「自分の発言（考え）で授業が進んでいく」という児童の意識づけ（主体性）ができた。

＜課題＞

・「ねらい」に合った「主体的な学び」につながる学習活動を工夫すること。そのためには、積み重ねが必要だと感じた。
・課題解決に向けた「意見交換」（児童）が、まだ十分にできていない。
・「主体的な学習」に迫る方法は色々あると思うので、その他の方法も研修したい。

本校では、学習者が「主体的な学び手」になることを重視して取り組んできた。交流活動（対話）に進んで取り組める児童にするために、方向性を絞り込んだり視点を決めたりしながら取り組んだ成果は上記の通りである。一人一人を大事にすることも確認できた。

今後も、児童自身が「自分たちの学習」という意識を大事にしながら、「一時間の学習」「単元全体の学び」を進めることができるよう、研究を継続させたい。

(2)、「対話的な学び」に関して

＜成果＞

・「対話的な学び」を通すことで「主体的で深い学び」へとつなげることができた。
・友達の発言を聞き、前の人の意見につなげて発言できるようになった。

・教師の指導が「一方通行の指導」ではなく、学級の中で自分たちの学習課題となって、学習できている。
・間違っても良いということが安心材料となり、どんどん発表する児童が増えた。
・自分の考えを進んで発言する態度が身に付いてきた。

＜課題＞
・国語の学習だけでなく、他教科の学習でも継続的な実践(学び)が必要だと感じた。
・友達と自分の考え方を比べて、その相違点や共通点を明確にしながら読み深めていく力が、まだ十分に身についていない。継続して身に付けさせたい。
・短期間の研究(国語)であり、今後の積み重ねが必要だと感じた。
・児童同士の対話場面の設定の難しさを感じた。また、重要性も感じた。(複数)
・出された意見に対する「反対の意見」について、抵抗がまだ見られる。「対話」とは、お互いが異なる考えを出し合うことという意識をよりもたせたい。

教師が一方的に「教え込む」のではなくて、「児童の対話や互いの気付き合いを通して学習課題を解決する」という授業づくりを皆で進めてきた。時間がかかることであり、手間のかかることでもある。それこそ「児童を目指す姿に導くこと(育てること)の難しさ」でもある。研究を通して、どういう手法・過程を踏めばそのような姿に育っていくのか、時間はかかったがある程度は理解できてきた。しかし、課題の中に書かれてもいるように、不十分な面も残されている。更なる交流活動(対話)の活性化を目指して研究を続けたい。

(3)、「深い学び」に関して

＜成果＞
・「主体的・対話的な学び」が充実した時は、「深い学び」へとつながっていた。
・児童の「振り返り」における発言や記述された言葉を読むと、個人の学びは深まっていると感じる。
・児童に「振り返り」の学習習慣が身に付いた。
・学習による児童の変化を、「振り返り」の見える化によって自覚させることができた。

＜課題＞
・今後もいかにして「主体的な学び」「対話的な学び」を充実させていくか。
・この活動を継続しながら「基礎的・基本的な知識・技能」を身に付けさせること。
・お互いの考えを共有して、更に自分の考えを広げられるようにすること。
・教材について「研究する時間」がとれないこと。
・新教科書で新教材も多い。教師がじっくりと教材について考察する時間が欲しい。
・個の学びの深まりは感じるが、それらが学級全体の深まりとなっているかは難しい。
・「対話的な学び」との関連でより深く考えさせるには、「振り返り」を次時の導入とする方法もあるのではないか。

「研究の概要」でもふれたが、「深い学び」の考え方・捉え方も色々あると感じる。
本校では授業の終末場面での「深い学び」の体得等を重視して取り組んできた。学習活動(言語活動等)を工夫することでその達成感が高まった。また、「振り返り」を共有することで気付き・学びも深まった。これらは大きな成果と言える。
今後も、学習の達成感や課題解決の満足感等を自覚できる学習を一つでも多く実現させ、その学びや意欲が、その後の学習や生活に生きて働くよう、研究を続けていきたい。

2、読み物教材における「読み深める活動」について

この取組に対しては、令和２年度のスタートであり、実質４ヶ月の研究でしかなかった。
そのため、学校全体での取組という部分では共通理解を深めることが弱く、研究が先行する面もあった。しかし、研究授業者は、その都度指導の重点となる方法を適切に授業改善に生かし、参観者の先生方に授業実践として検証できる場を設定してくれた。そして、短期間というハンデを乗り越えるよう頑張ってくれた。その結集が１０月１６日の公開授業である。それぞれの教材の特色に応じ、児童が主体的に「読み取りを深める」授業の公開となった。研究に対する「成果と課題」は下記のように整理された。

(1)、「言葉による見方・考え方」に関して

＜成果＞
・教材文(本文)の叙述に、目を向けられるようになった。
・言葉のもつ意味を知ろうと、辞書を今まで以上にひくようになった。
・「叙述を基にして考える」という基本が児童に身に付き、学習の基礎ができた。(複数)
・指導者としても、その意味を理解することができた。今後の指導に役立てたい。
・言葉に着目することで、児童の教材文に対する関わり方が変わった。良くなった。
・言葉(教材文)を大切にして、一つの言葉に注意して考えられるようになった。
・一つの言葉にも色々な受け取り方があることを、児童が理解した。

＜課題＞
・職員間で「言葉による見方・考え方」への共通理解が浅かった。
・話の全体と部分とを、関係づけて考える力をのばす必要がある。
・「叙述を読み取る力」が継続的に身に付いていくことが大切だと感じた。
・友達の意見を参考にして、自分の意見を深めさせる方策があると、さらに深まる。
・この視点における研究を昨年度から進めていれば、より研修が深まったと思う。

国語の研究という視点からすると、児童が今まで以上に「叙述に着目するようになった」「話し合いの論点が焦点化され、論理的な話し合いになってきた」とする姿が育ってきた。研究のねらいに迫ることができつつあり嬉しいことである。
しかし、課題の最後にも書かれているように、もっと早く気付いていれば「授業改善」もより進んだのではないか、という感想を読むと、本当にそうだったとも反省できる。しかし、気付かないままの研究ではなく、「国語においてはとても重要な視点である」こと

を理解した発見は大きい。他教科でも「・・・の見方・考え方」を育てることが新学習指導要領の中心でもある。応用が生かせる視点として、どの教科でも大事にしていきたい。

(2)、「必要感のある言語活動」に関して

＜成果＞

・単元を通して「何のために学習しているのか」ということを、子どもたち自身に自覚させることができた。
・「話の内容」を場面毎に整理することで、全体の流れを捉えられるようになった。
・「分かる楽しさ」を味わうことが、学習の楽しさにつながった。学ぶことに大切さを実感することができてきたと思う。
・学習の提示を「分かり易く」することで、児童の学習に対する取組が大きく変わった。良くなった。言い換えれば「主体性」が高まった。
・一人一人の考えが異なることを「見える化」することで、学習の必要感をもたせることができた。
・他教科でも「必要感のある〇〇活動を展開する」ことは重要である。常にその視点で学習活動を考えたり、児童への提示等に生かしたりしたい。

＜課題＞

・「単元を通して意識させること」「子どもたちと共通認識を貫くこと」の継続実践。
・一つ一つの言葉や表現を丁寧に読み取る力を、更にのばしていくこと。
・物語文の指導において、児童の考えの多様性を認めることを更に進めて行くこと。
・この視点における研究を昨年度から進めていれば、より研修が深まったと思う。

「言語活動」を工夫することは、今までの学習指導要領でも求められていた内容である。

しかし、何か掴みにくい内容でもあった。そこで、要請訪問等で指導主事から色々なことを学び「必要感のある授業づくりのポイント」を教えてもらい、それが大きな転換点となった。物語文の特色を生かした言語活動づくり。説明文の特色を生かした言語活動づくり。双方が全く異なることを研究で理解した。おかげで、授業分析が明確になってきた。

授業をシンプルに構成すること。単元全体の中における「本時の位置付け・学ぶべき内容」との関連など、指導者にとっても児童にとっても分かりやすい「言語活動」が展開さてきた。「言語活動」についてのモヤモヤ感も払拭できている。今後もそれらの授業づくりを継続させ、６年間で「確実な言語能力」が育つよう継続していきたい。

3、本年度の「研究（全体）」について

＜成果＞

・国語の学習を中心に「文学的文章」「説明的文章」の指導方法の基礎が確立できた。
・「主体的・対話的な学び」につながる「学習課題の在り方」「学習活動の進め方」を探ることができた。

・学習課題に対して、直ぐにあきらめずにじっくりと考え、自分の考えが少しずつもてるようになってきた。
・本年度取り組んできた、板書での「見える化」、終末での「振り返り」の充実などによって、新学習指導要領が求めているものを具体化することができた。
・既習事項等をホワイトボードに掲示するなどして、復習や本時の確認等で活用することは、有効なことが分かった。

＜課題＞
・「深い学び」を生み出す授業に対して、更なる研究を進めること。
・「言葉による見方・考え方」に対して、更なる理解を進めること。
・「集中力の持続」を保つこと。
・「読む」「書く」「話す」「発表する」などの基礎学力の向上が必要だと感じた。
・今年度、途中からサブテーマが変わったことで、やや混乱が生じた。
・６月開始ということだが、「リレー方式」による積み上げができると良かった。

短期間の研究ではあったが、早期に視点を絞り込んだため、内容が明確になり共通の話題として研究を進めることができた。特に、臨時休業期間に実施した「要請訪問」と、全員で参観した「ベテラン先生の研究授業(新潟県)」は、先生方の意識向上や方向の焦点化に向けては効果的であった。研究の視点を絞り込むことで、研究はシンプルになり、同じ視点を深く掘り下げることもできた。協力して進めた授業実践では、研究での考え方が実践を通して検証され改善につながっていった。

課題にもあるように「ゆとりを生かした研究ができなかった」との意見は、その通りだと思う。しかし、上記の成果が、Ｃ小の新しい土台(基礎)として固まりつつあり、本当に素晴らしいことである。今後は、その土台に色々な「児童が主体的・対話的で深い学び」が実践として積み上がり、児童の喜びにつながるよう、さらに研究を続けていきたい。

また、学力向上という視点から児童の学び・育ちを振り返ると、数値的にも平均値を達成できているので嬉しい限りである。今後も、知識面での育ち、資質・能力面での育ちが両立できるよう努めていきたい。

Ⅳ　全体会　※16:00～16:20

◇　指導・講評（指導主事）※箇条書きで要約して整理。

Ⅰ、本日の授業発表会に関して

・「主体的・対話的で深い学び」に向けた、国語の「教科別指定研究」に関する授業実践。併せて「総合的な学力向上」に関する２年間の指定研究と授業改善。指定校に関するこれまでの取組に対して心より感謝いたします。

Ⅱ、本日の公開授業に関して

・本日の５年生は、開始前は穏やかにリラックスしていたが、開始とともに、自分の考えをもつこと、根拠をもって考えを発表することなどに真剣に取り組む姿を見ることができ、児童の大きな成長を感じた。
・１年間の授業改善で、こんな風に詳しく説明できるようになったことや、自信をもって意見を発表できるようになった姿を見て、とても成長を感じた。
・今までの国語科の実践上の課題は、文学的文章も説明的文章も、教科書を読み、同じような読み方指導で終わってしまう授業が多かった。しかし、今回の学習指導要領の改訂では、「言葉による見方・考え方」を働かせ、「言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力」を育成することが重要なポイントになっている。よって、重要なキーワードは、「言葉による見方・考え方」を働かせることであり、「言語活動の在り方」を見直すことにある。
・目的をもって言語活動が展開されること、その目的に応じて読みを深めていくことが、今後の学習に求められている重要な視点になる。
・特に、「言葉に着目する」に授業にするために、どのような言語活動を展開するのか、指導者に求められている重要な視点である。また、そのような考え方から「単元を通した必要感のある言語活動」をどのように展開していくのか、更に重要になってきている。今後１０年間は必要となる教師の指導力でもある。
・Ｃ小では、「言葉による見方・考え方」と「必要感のある言語活動」に研究を焦点化し、読むこと（Ｃ領域）を中心に研究を進めてきた。今後１０年間、現行の学習指導要領に沿って授業づくりを進める上では、他校の見本となる実践だと思う。
・３年生の「すがたをかえる大豆」では、教師が「文章の構成」にきちんと着目させて進めていること、そして、理解したり考えたりした「文章構成の特色」を「自分の巻き物づくり（書くこと）に生かそう」という、児童の目的意識を明確にした単元構想の下で授業を進めていた。
・５年生の物語文「たずねびと」では、主人公の気持ちの変化の理解（読解）に向けて、叙述に即して丁寧に読み解いていくこと、自分の考えと友達の考えの交流によりその変化をより深く捉え直すことが、授業のポイントになっていた。
・〇〇先生の授業のポイントは、ねらいの達成（深い読み取り）に向けて、教師が児童の多様な意見をどのように方向付けていくかがポイントとなった。そのための方策や発問等を事前に準備しておくことの重要性が、授業研究会でも話し合われた。

※この後の内容の一部(本時の落としどころの視点)は、授業研究会の内容と重なるので省略します。前述した内容「指導講評３の（1)」で確認してください。

（中略）

・指定研究が始まった最初の頃、校長先生が「多人数の学級では、一部の児童の意見で学習が進み収束してしまう傾向がある。本当に全員が共有できているのか不明だ。Ｃ小では、少人数の良さを生かし、全児童が確実に自分の意見をもち、その考えを発表し、交流し合い、その中で深い学びに近づけていきたい。そういう実践を本校では実現したい。」「先生方と協力しながら創りあげたい。」と話してくれた。その言葉が印象深く今でも頭の中に残っている

・少人数の学校だから、多くの意見が出ない、活発な交流にはならないのではない。少人数の学校でも、自分の意見をしっかりともち、自分の考えは堂々と発表し、相手にも受け入れてもらえ、活動することを楽しむ。新しい意見を学び合う。先生にも気付かなかったことを教えてもらい、「ああ、なるほど。」とより理解できる。

・こういうことは少人数の学校だからできるのかもしれない。少人数の学校だからこそ、児童一人一人を生かすことができるのではないかと思う。

・２年間の指定で児童は大きく力を伸ばしてきた。具体的には、「一人一人の表現力が伸び、発表に対する姿勢も積極性が増してきた。」「自分が納得するまで、真剣に悩み、次の活動へと移らない。」など、一生懸命に学ぶ姿は研究の大きな成果である。

・今年度は、新型コロナウイルスの影響で、研究を思ったように進めることができなかったと思う。色々な制限を受けながらも、実践を積み重ねたり授業改善を進めてきたりしたことは、大変なことだったと思う。

・そのような中で、児童が学んできた「日本語の良さや難しさを考えること」「言葉を大事にすること」「学んだことを他に生かすこと」などは、今後も受け継がれていくだろう。今回の取組を継続して実践して欲しい。

・本研究を通して、国語の学習の楽しさ(難しさも)を、先生方も児童も学んだと思う。国語の学習指導には柔軟性があり、先生の意図が強く反映できる教科でもあるので、研究を通して学んだ「楽しい言語活動」を児童とともに創り出して欲しい。

・本実践の良いところは、郡内の他の学校にも積極的に紹介していきたい。

※このあと「閉会行事」と続く。

↑３年生の「授業研究会」

←全体会での「指導・講評」

Ⅴ　おわりに

今、学習指導要領の改訂で「主体的・対話的で深い学び」をいかに実現していくのかについて、全国各地で様々な実践や研究がなされています。この主題を実現するためには、具体的に授業でどのようなことをすることが大切なのか、本校でも授業改善に向けて真摯に研修を重ねてきました。その結果、１０月１６日の公開授業では、Ｃ小での授業方針の一つである「少人数でも、全員参加型の授業として、児童一人一人が生き生きと学習している姿」を見事に具現化することができました。また、「Ｃ小授業スタイル」の共有を図ることができました。それらをこのような形で報告できることを嬉しく感じています。
この報告書を作成する過程で何度も授業の映像を見返すと、そこからは、「子ども達が生き生きと授業に参加し友だちと交流する姿」と、その子ども達を「温かい目で見守りながら、本時の学習で子ども達の目指す姿を実現しようと授業を進めている先生の姿」が飛び込んできました。さらに、授業研究会での先生方の熱心で的を射た議論の声と合わせて、Ｃ小の授業づくりを推し進めてきた大きな財産・力を改めて実感させられました。

最後に、ここに至るまでに、群馬県教育委員会、教育事務所を始め、多くの関係者の方々の御協力をいただき、本当にありがとうございました。大変な社会状況の中にもかかわらず、本校の研修に対して温かく貴重な助言や示唆を与えていただいたことを糧に、これからもこの研修に関わった先生方や子ども達とともに日々精進すべく歩んでいきたいと考えています。今後とも御指導の程をよろしくお願いいたします。

令和２年１１月　　Ｃ小学校
教頭　　○○　○○